

鈴立山  
名勝寫真帖

023428-000-6

特28-136

鈴立山名勝写真帖

氏家 栄田 / 著

M43

ADC-0374



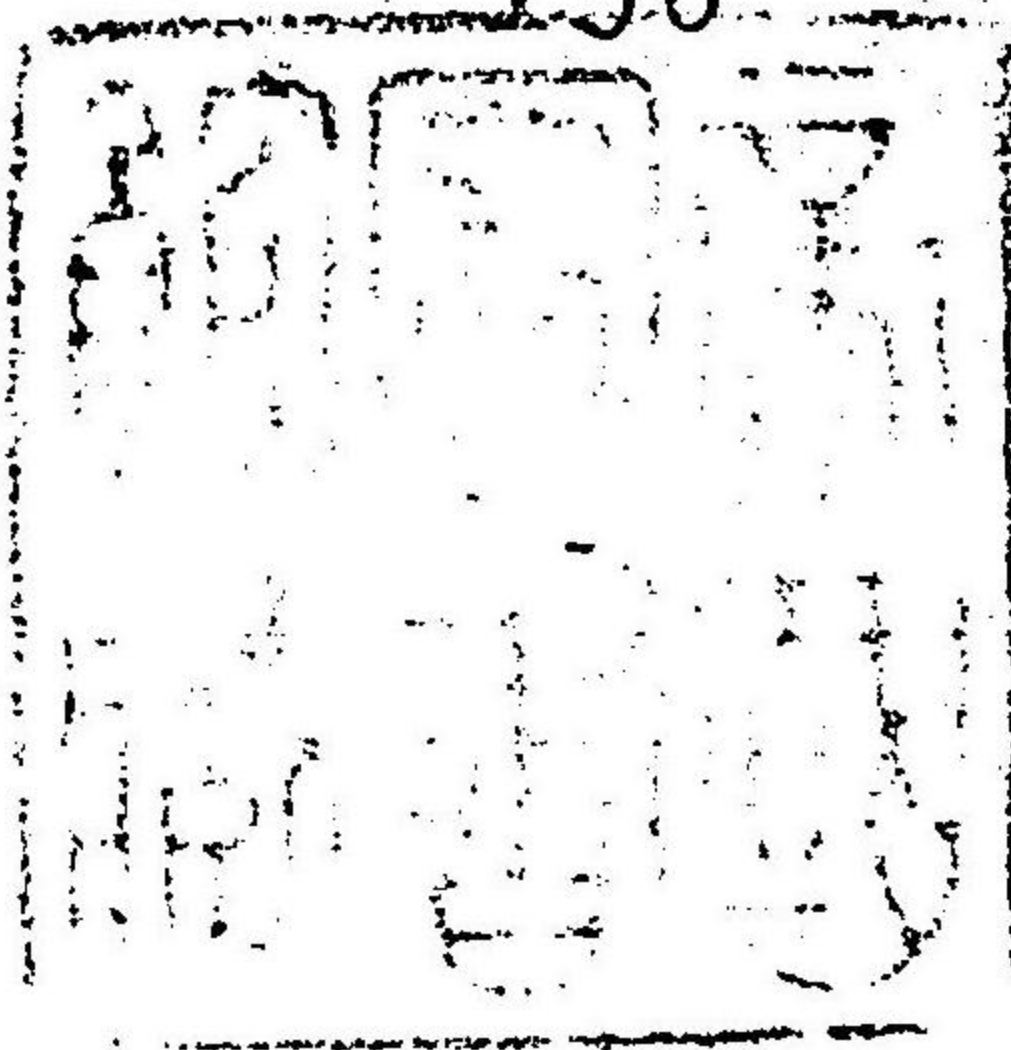
265  
587

特  
1



特28

135



印持加寺松若山立鈴





圓通



鏡題







若松寺畧縁起

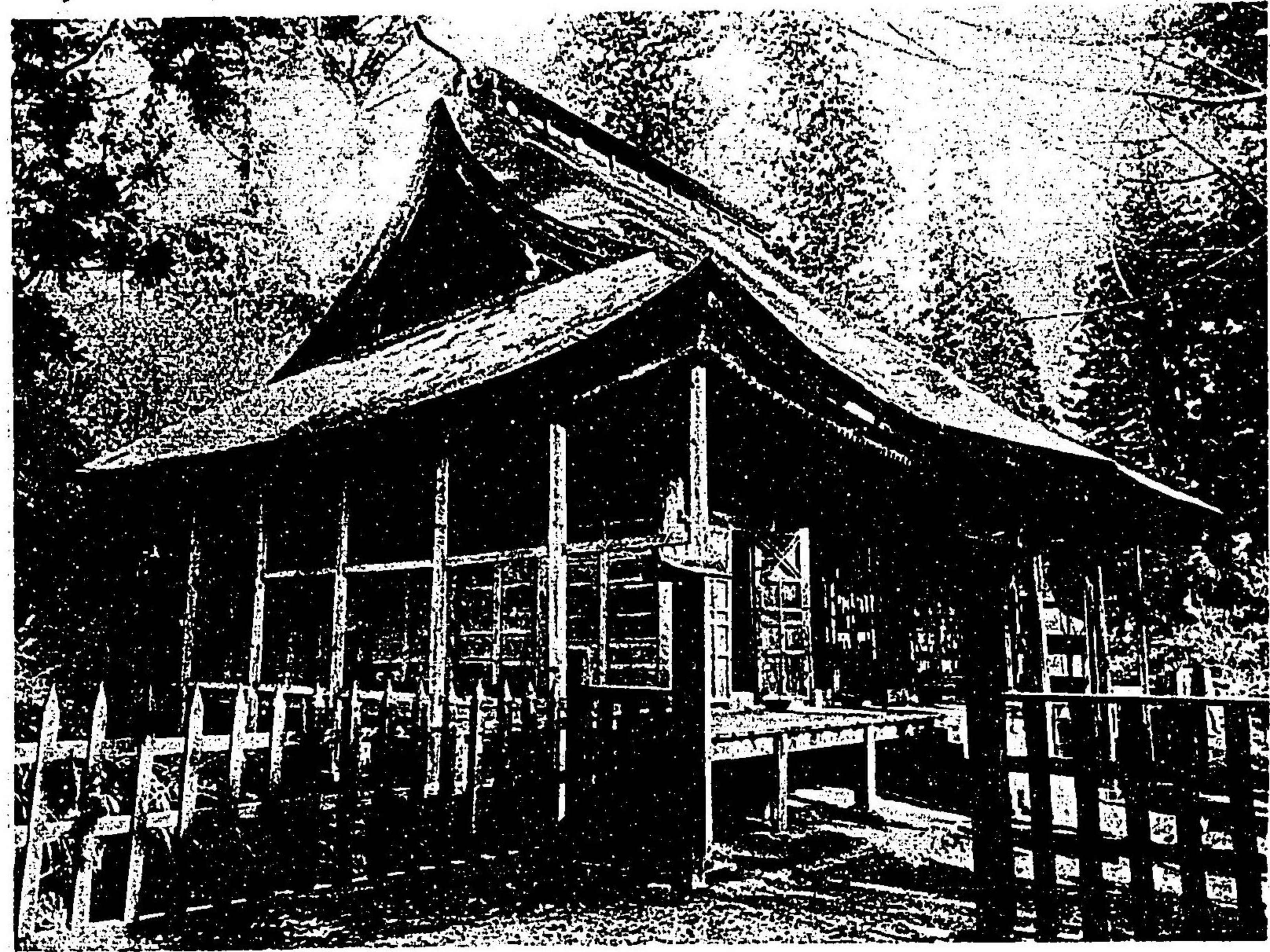
當山は人皇四十三代 元明天皇の御宇和銅元年庚申行  
 基菩薩を奉り當國行化の際最上川の東北に當り振鈴の  
 聲あるを聞き寺興の思を爲し試み踏攀せられし老  
 松の梢上に大光明を放ち三十三身の聖容儼として立ち  
 給ふ是に於て當山は佛敎を弘宣流布するの好適地たる  
 事詔せ奉り創せり木立聖場として本尊は山上の杉樹を  
 林料として一カ三礼の法を以て觀音の尊像を刻み新に山  
 を鈴立と稱し寺を若松と稱し給ふ如何なる深意のあり  
 しかば自ら封して秘傳とし衆人の拝するを許されず  
 其の後弘法大師當山に於て一千座の護摩を奉修し其の  
 灰を以て腹籠りの辨財氏を作らる因て之を安置せし所  
 老興院と稱して人傳事崇せり又 清和天皇の貞觀年中  
 應覺大師當山に於て山頂にありし堂宇をば之を現今の  
 聖樹翁齋たる鈴立山の半腹に移し更に造営の工を竣り  
 湖山行基菩薩を胎士とし法華八講法樂を執行し如法堂  
 を建設せられ法華三昧三季の法規を定められ以て今日  
 及べり降て足利氏の時に至り當國の管領山形城主頼  
 宗公の息女姫當山觀世音菩薩を崇信し平素祈念を怠  
 らざりしに或夜夢中に三十三觀音の靈場あることを示  
 され乃ち之を巡礼せし以來最上第一番の札所として登  
 山者年々逐ふて益々多きを加ふるに至れり其の後最上  
 義光寺領二百三十石を附せられたるを徳川三代將軍家



光公改めて堂領として赤米印二百三十石を寄附せらる  
 而して外障上の銅圓形を聖觀音は弘長三年五月當堂  
 大禮那當莊大政所比丘尼奉懸の記名あり又内障の宮殿  
 は最上家の重臣當國四十八館の各領主及び旗下二百餘  
 名の修復をることば檀木の尖端に金鏤せる記名及び伎  
 章を徴して以て知るを得べし尚其の寶前に挑け奉れる  
 法燈は初め宗祖傳教大師が支那の天台山より傳へて比  
 叡山の根本中堂に挑けられしものを第二祖慈覺大師始  
 りて之を宝珠山主石寺に移し次で當山に分移して常燈  
 及び常香とせられたるものとして爾來不斷の光明不息  
 の慈烟を揚ぐることとなりぬ近時更に洋域を擴張し稚  
 松公園を新設し嶺頂を平坦とし且つ附近の雜樹荊藿を  
 荊除したるを以て四望豁然として眺望甚だ佳遠くは鳥  
 海月山栗山の峰巒を對し近くは水晶山關山靉々岳等を  
 一眸の中に収め脚下に村山の平野を控へ薩江の大流は  
 帯の如くなるに乱川寒河江川の二水此に奔注する等其  
 の勝景は筆紙に盡すべからず又一昨年若松寺保存會の  
 組織成りて着々成功の域に進みつゝあり當山の益々壯  
 觀に赴くは期して以て待つべし

明治四十三年十月二十日

鈴立山  
若松寺



堂本寺松若山立鈴

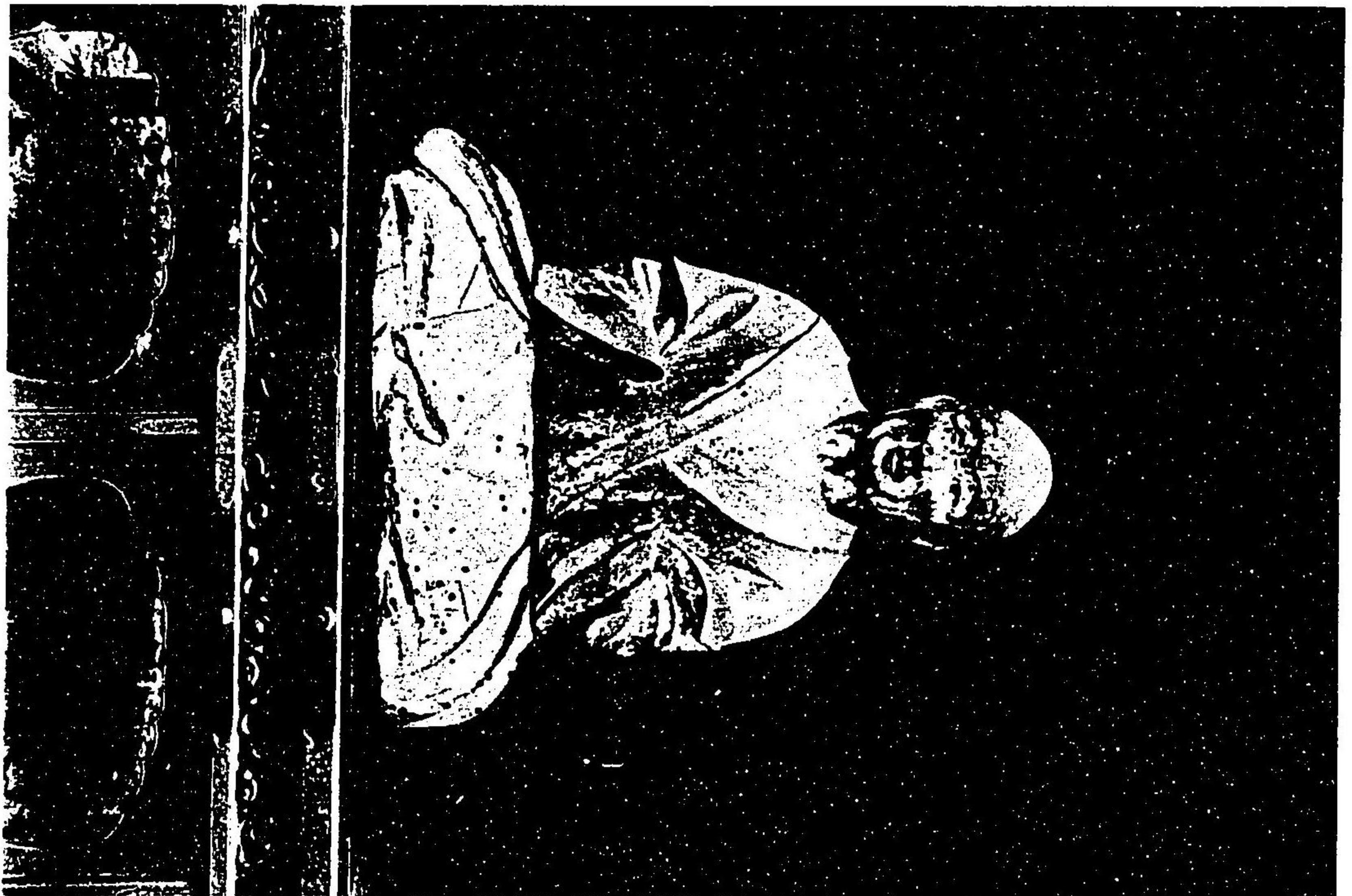




(二 共)

陣内堂本寺松若山立鈴

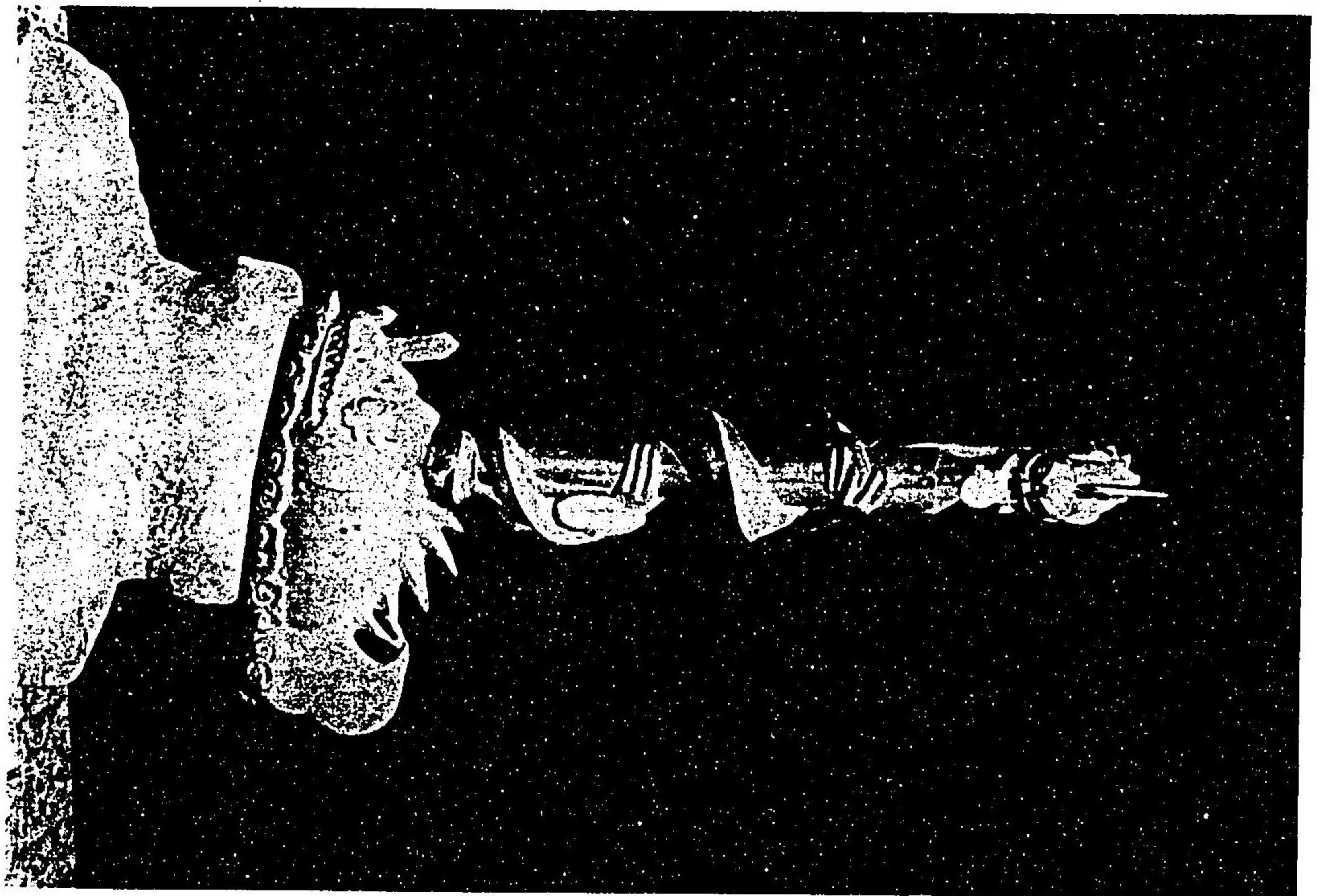




(三其)

薩普基行山明

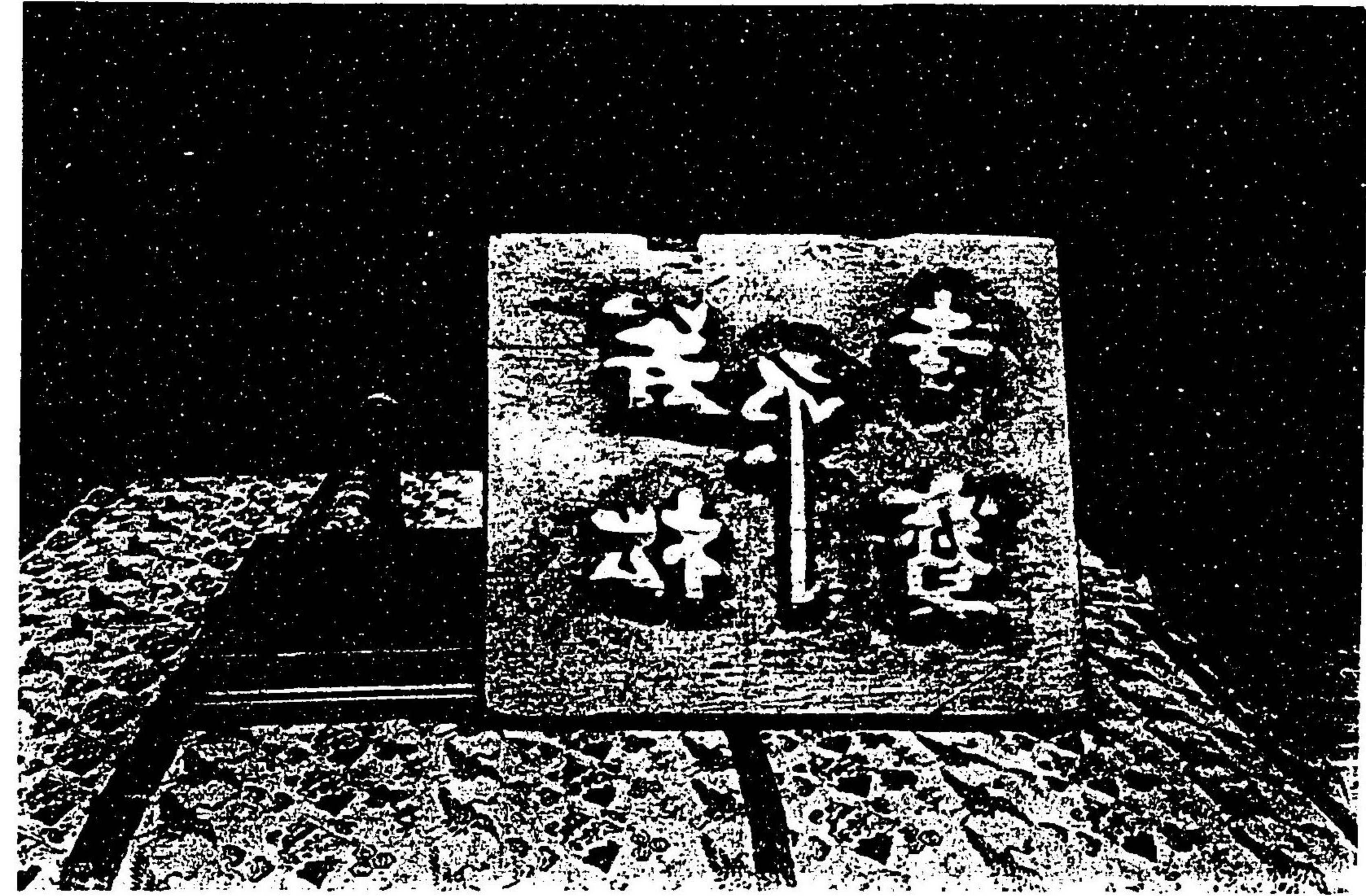




(四 其 )

王明勛不羅伽利俱

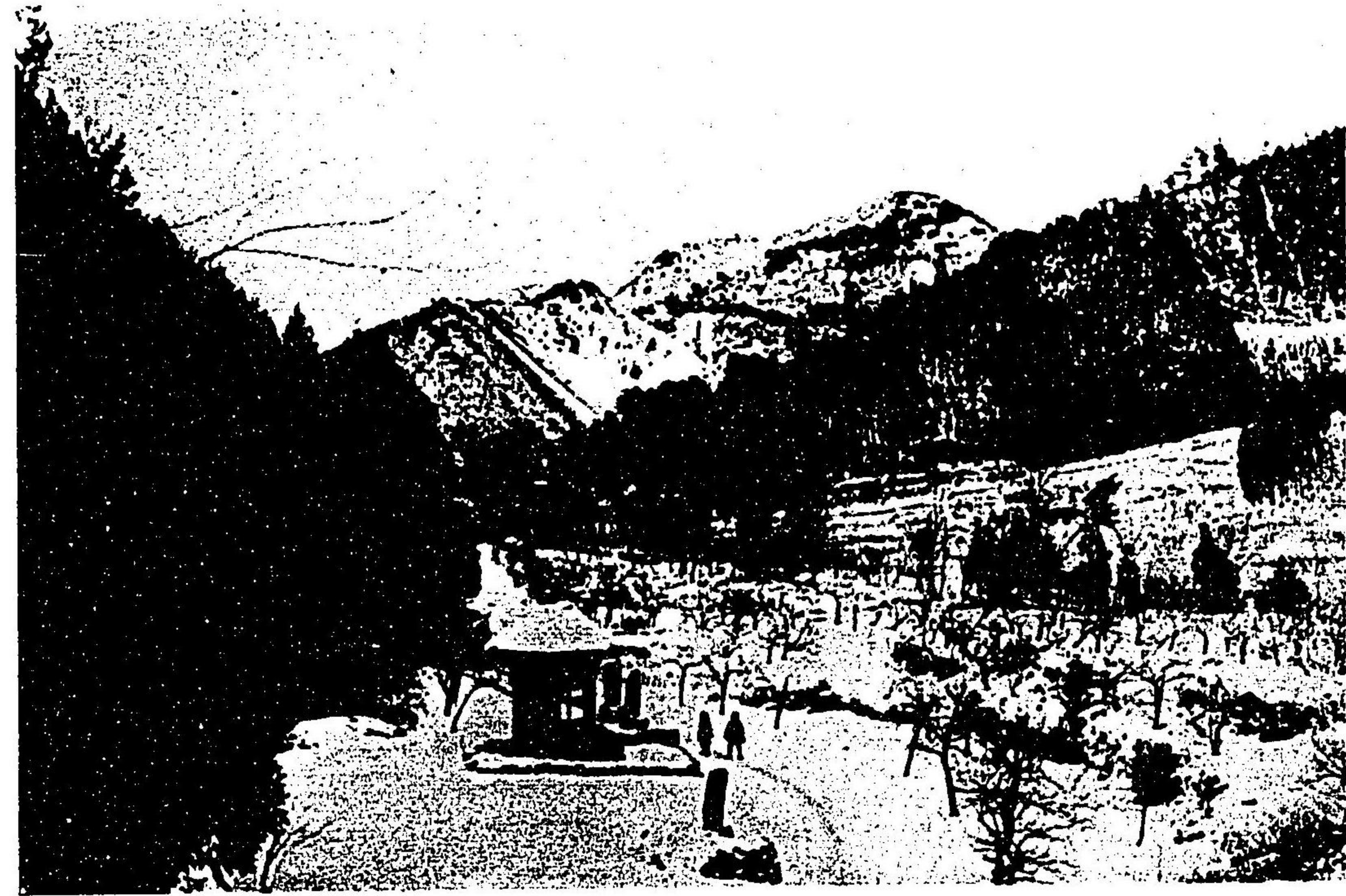




(五其)

印持加王牛及印寶寺松岩





(六共)

△ 望ヲ山立鈴リヨ塚境

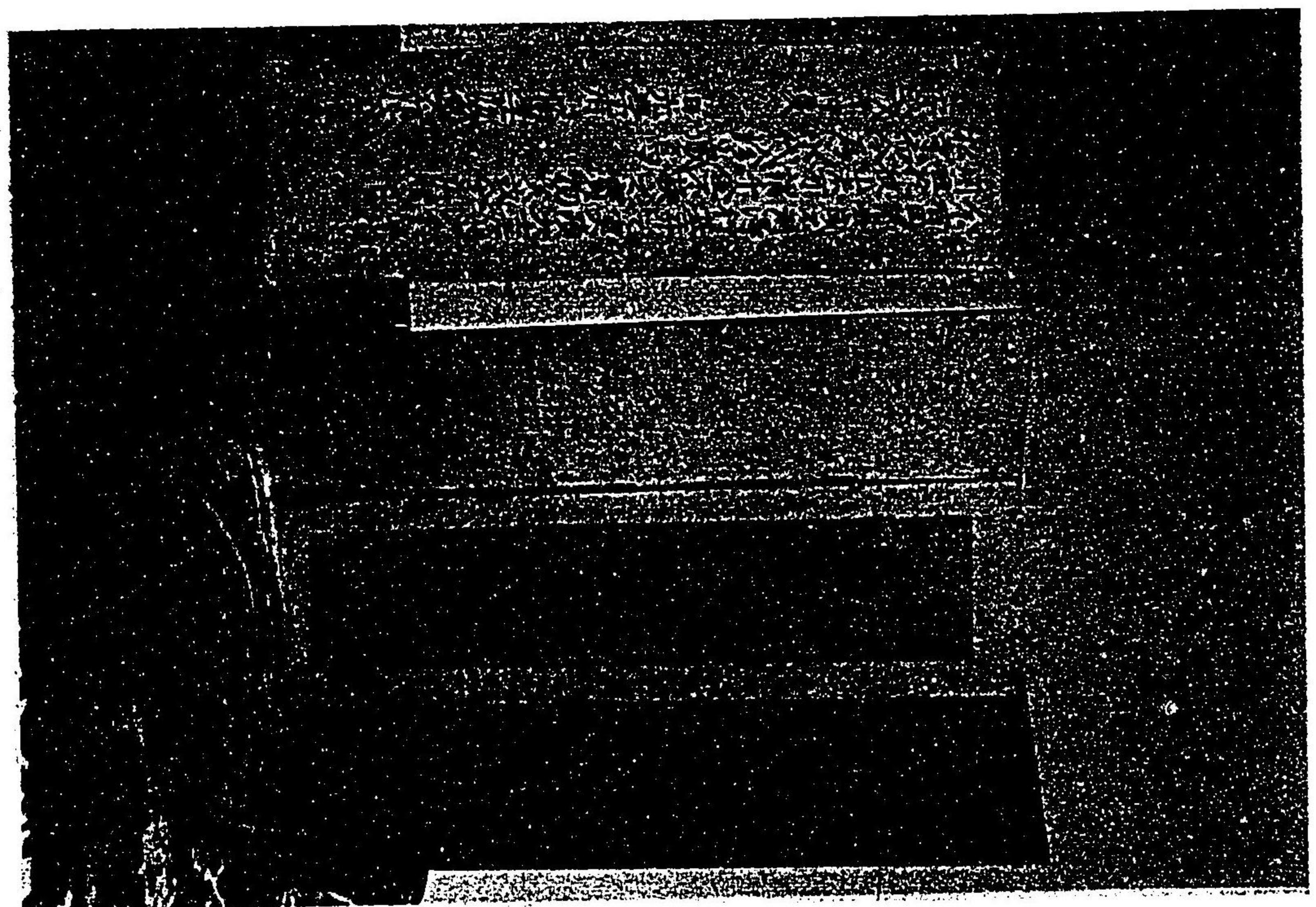




(七其)

ム 忽 ナ 山 海 島 リ 田 園 公 松 稔 寺 松 若

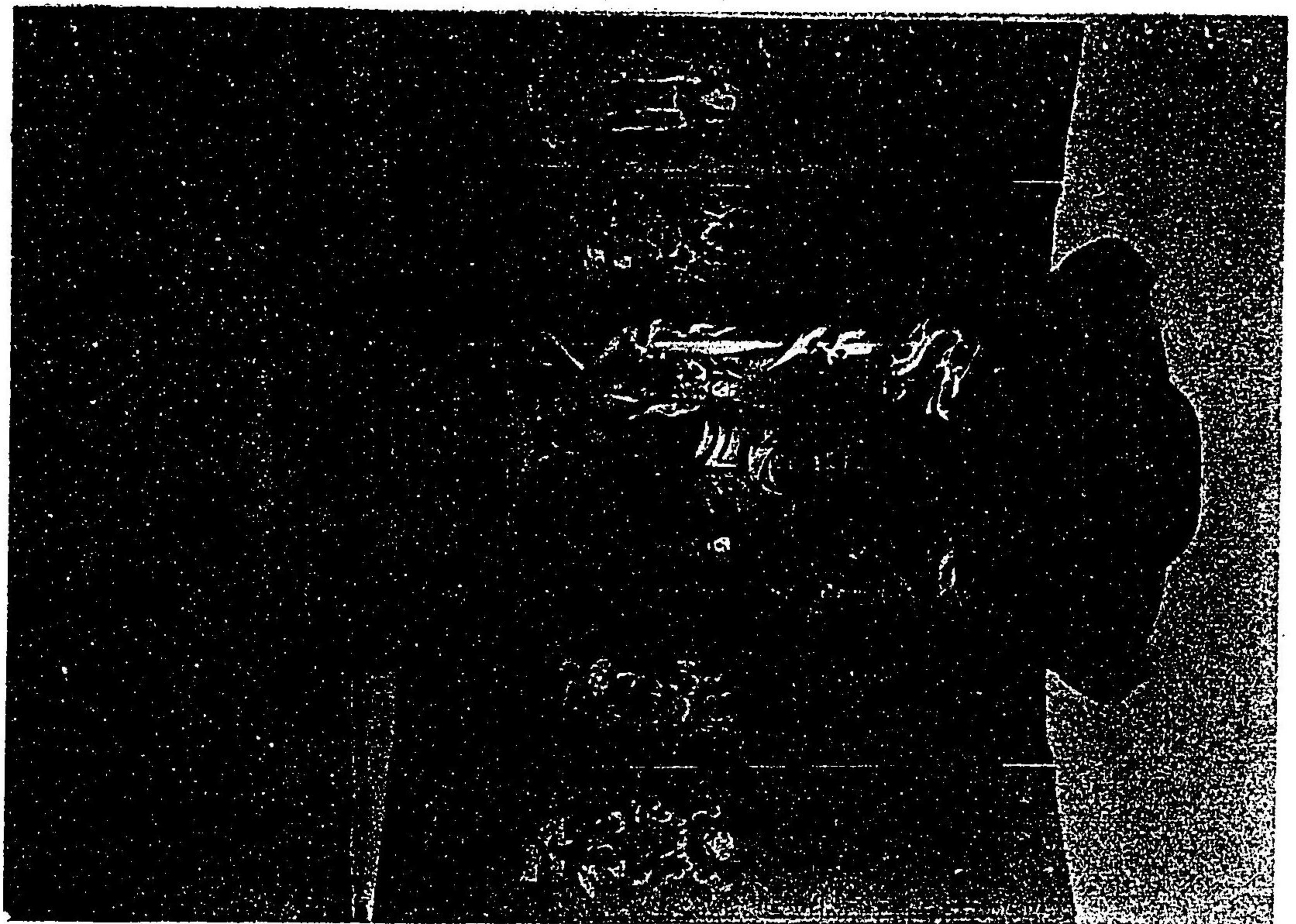




(八 其)

跡 眞 蹟 菩 基 行 山 開

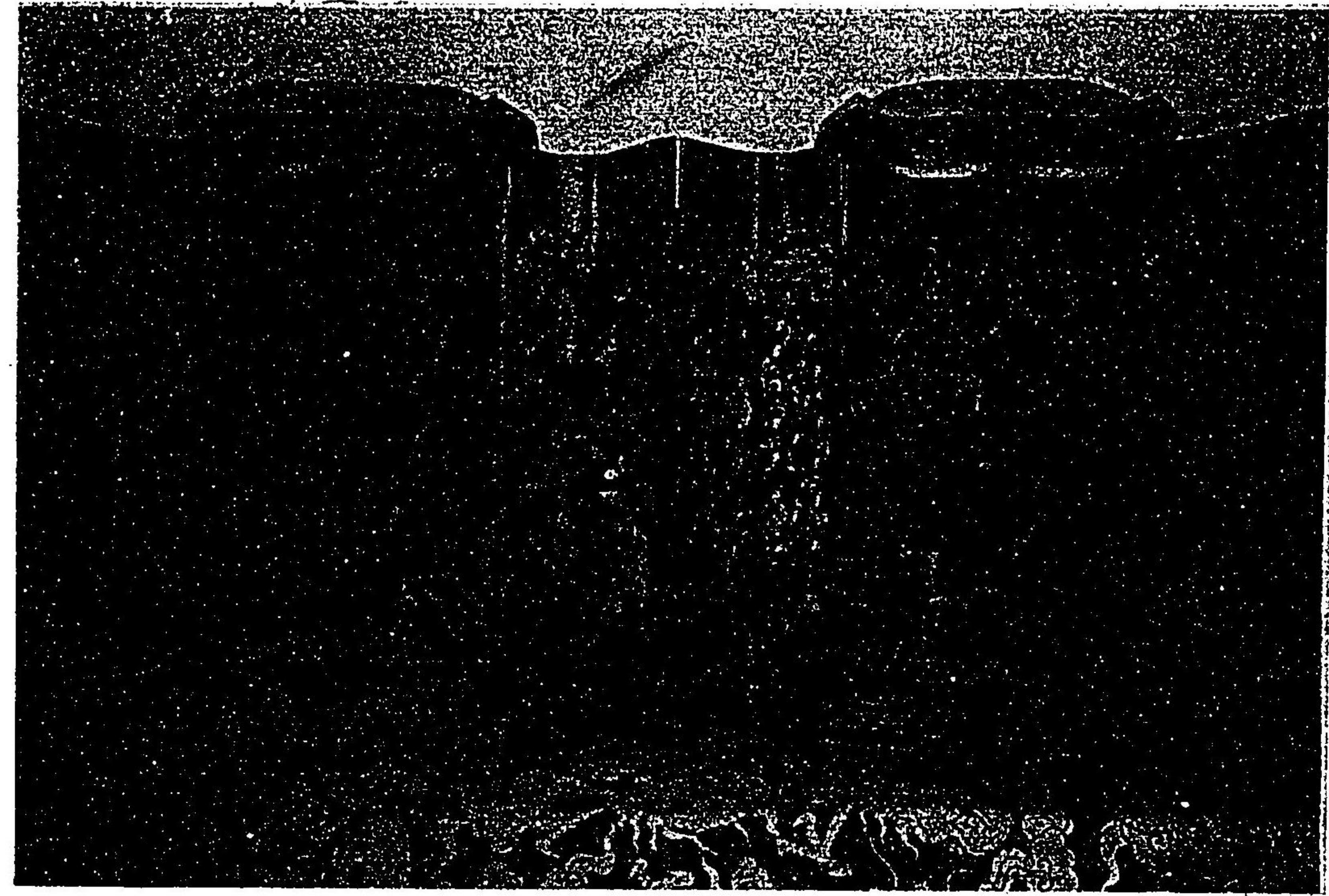




(九 其)

天門沙地





(十其) 子童五ノ天門沙毘

星曜七





(一十其)

口山登山立幹

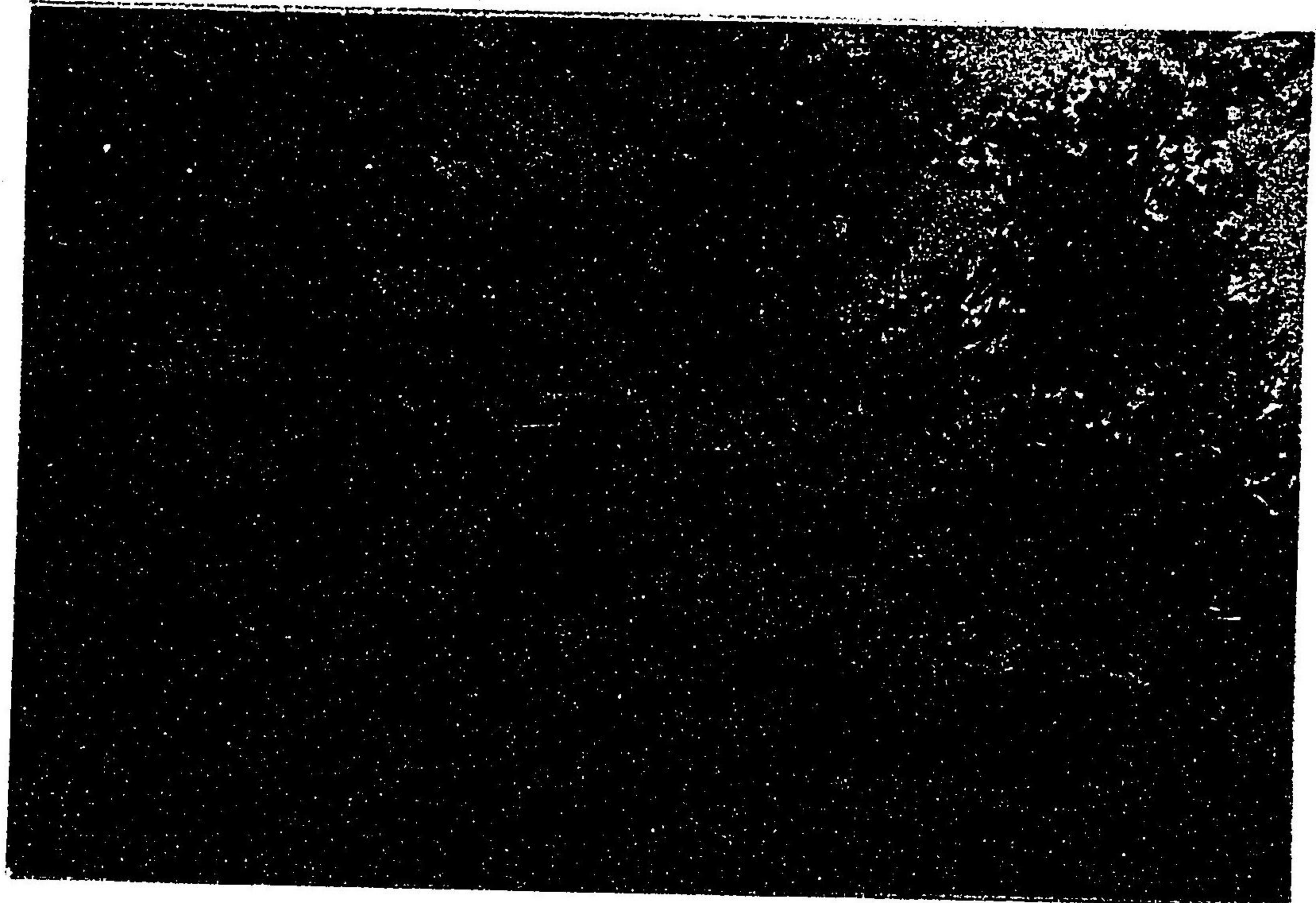




(三十其)

坂御山立給



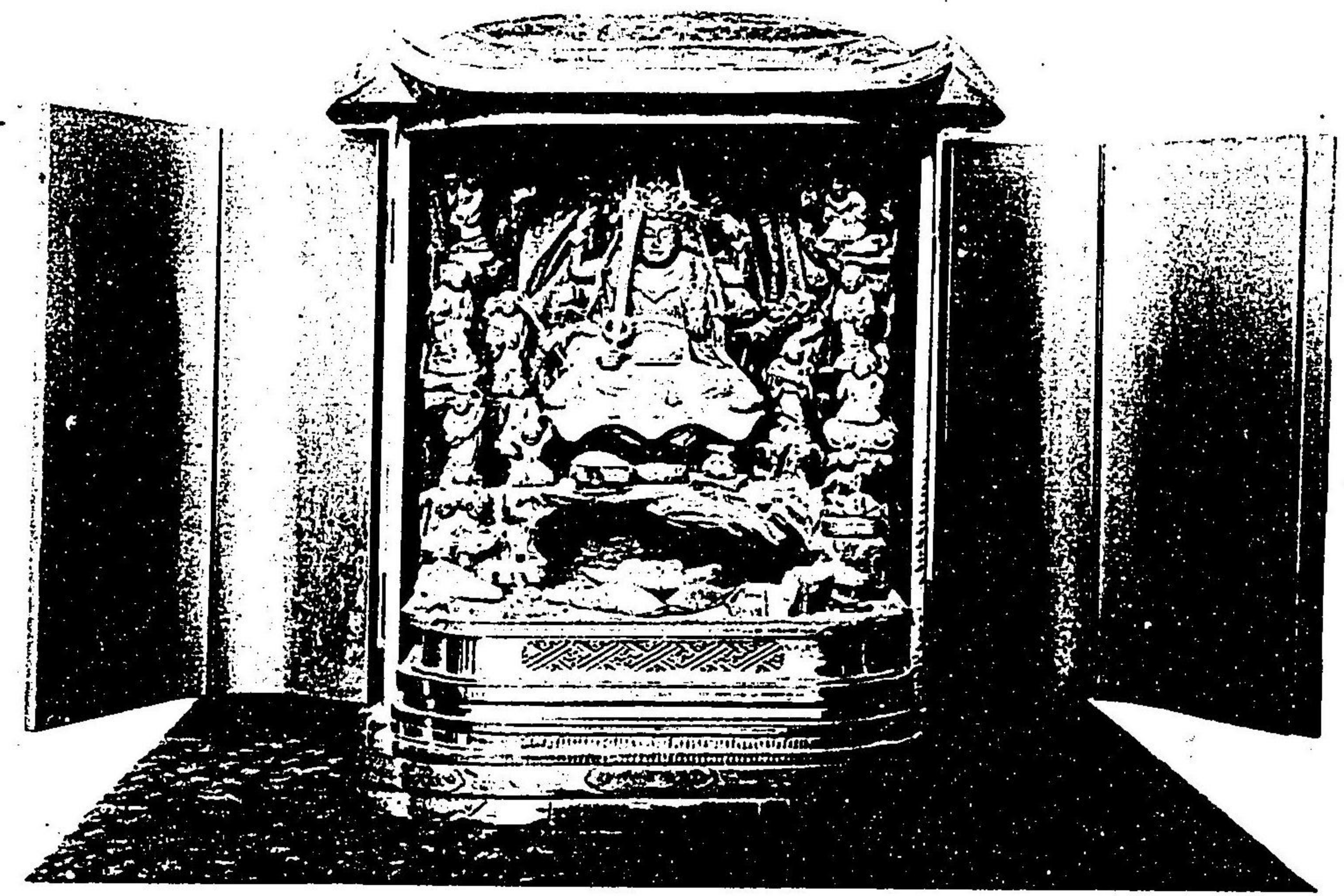


(三十其)

杉 婦 夫

○ 二 行

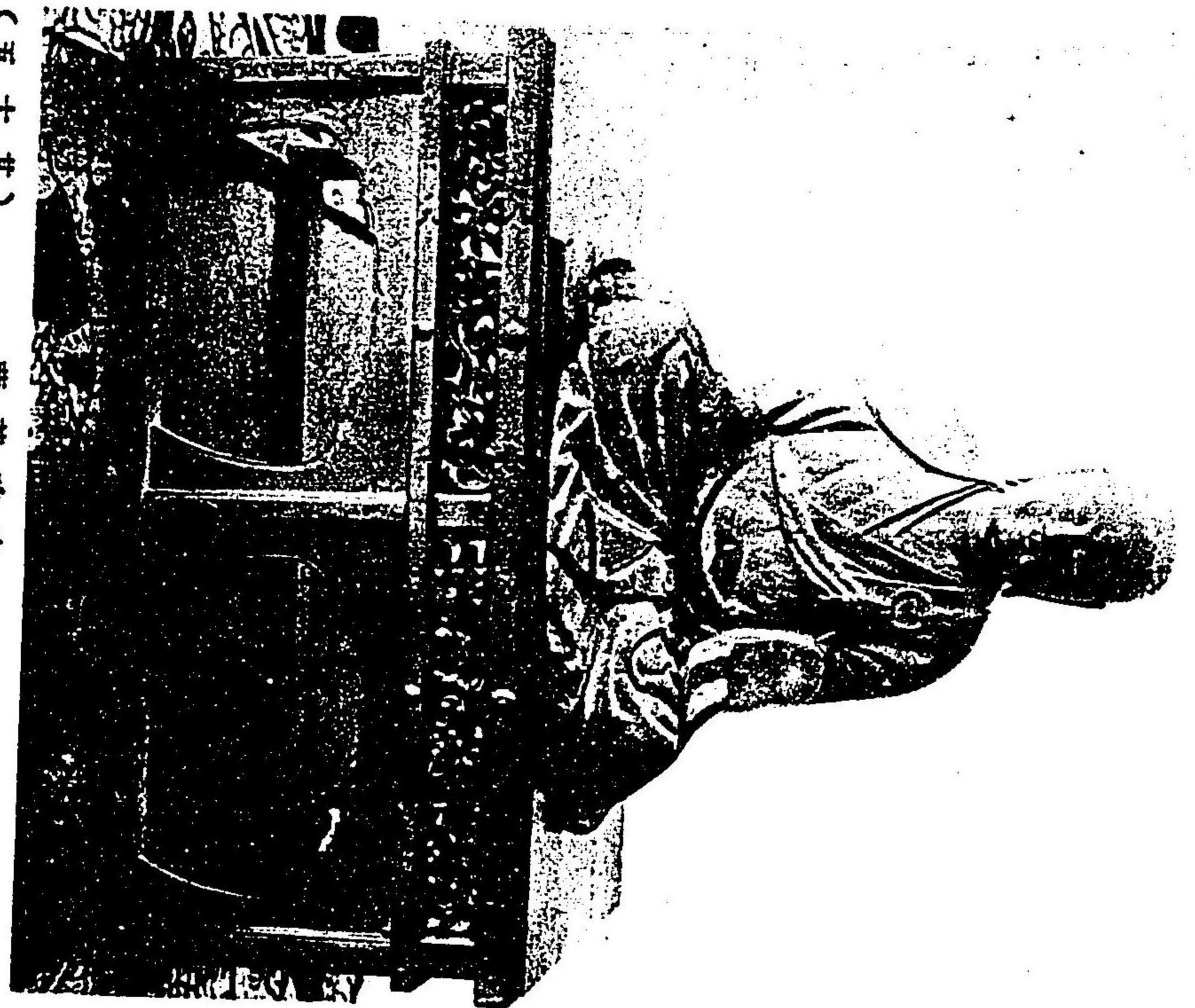




(四十一其)

天財辨院奥寺松若





(五十七共)

薩菩珠文





(六十其)

王明動不

來如日大

薩菩藏地育兒





(七十其) ▲ 望ヶ堂木リヨ美華寺松若





(八十八其) 望サ堂法如リヨ院性福

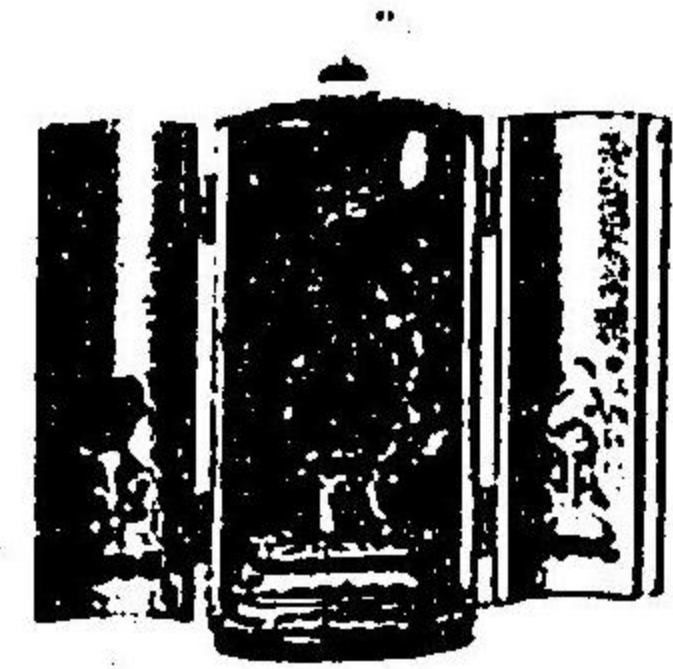




(九十其)

ム 忽ヲ山月リ日樓鐘寺松若





(十二其) 王明動不

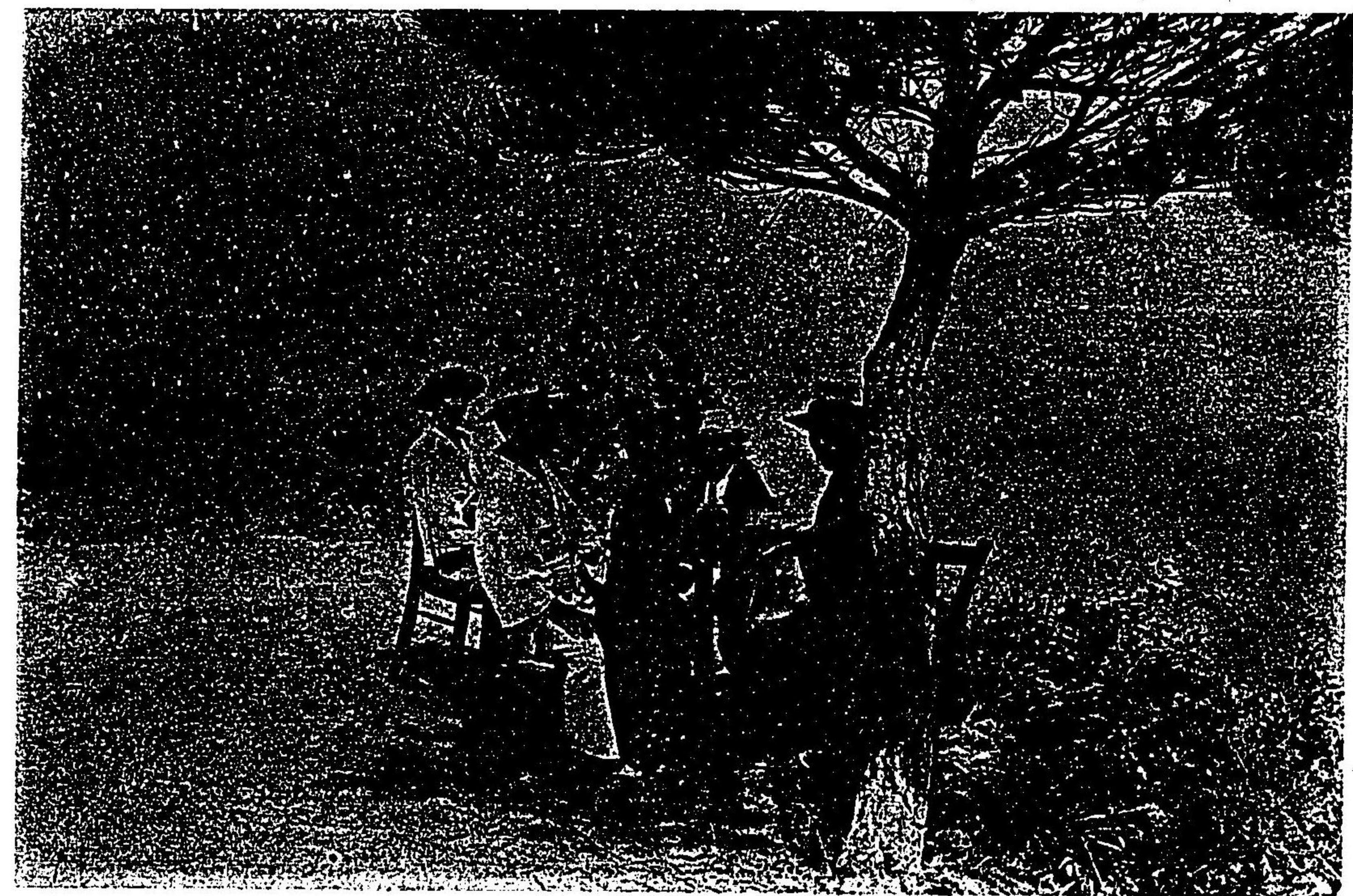


天財辨



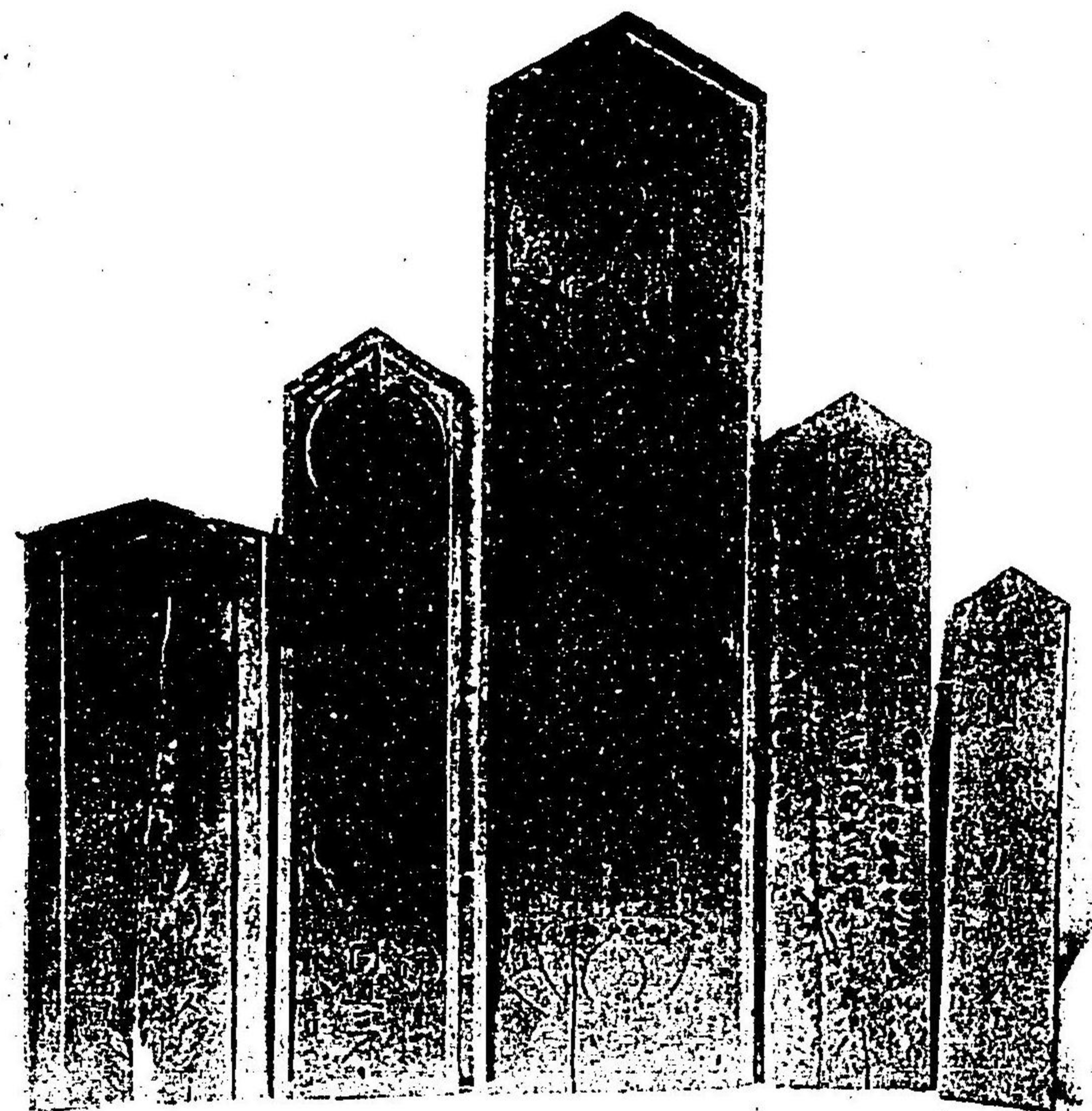
薩菩藏空虛





(一廿其) 若松寺権松公園絶頂ヨリ山村平野ヲ望ム





( 二廿其 )

札 納 奉

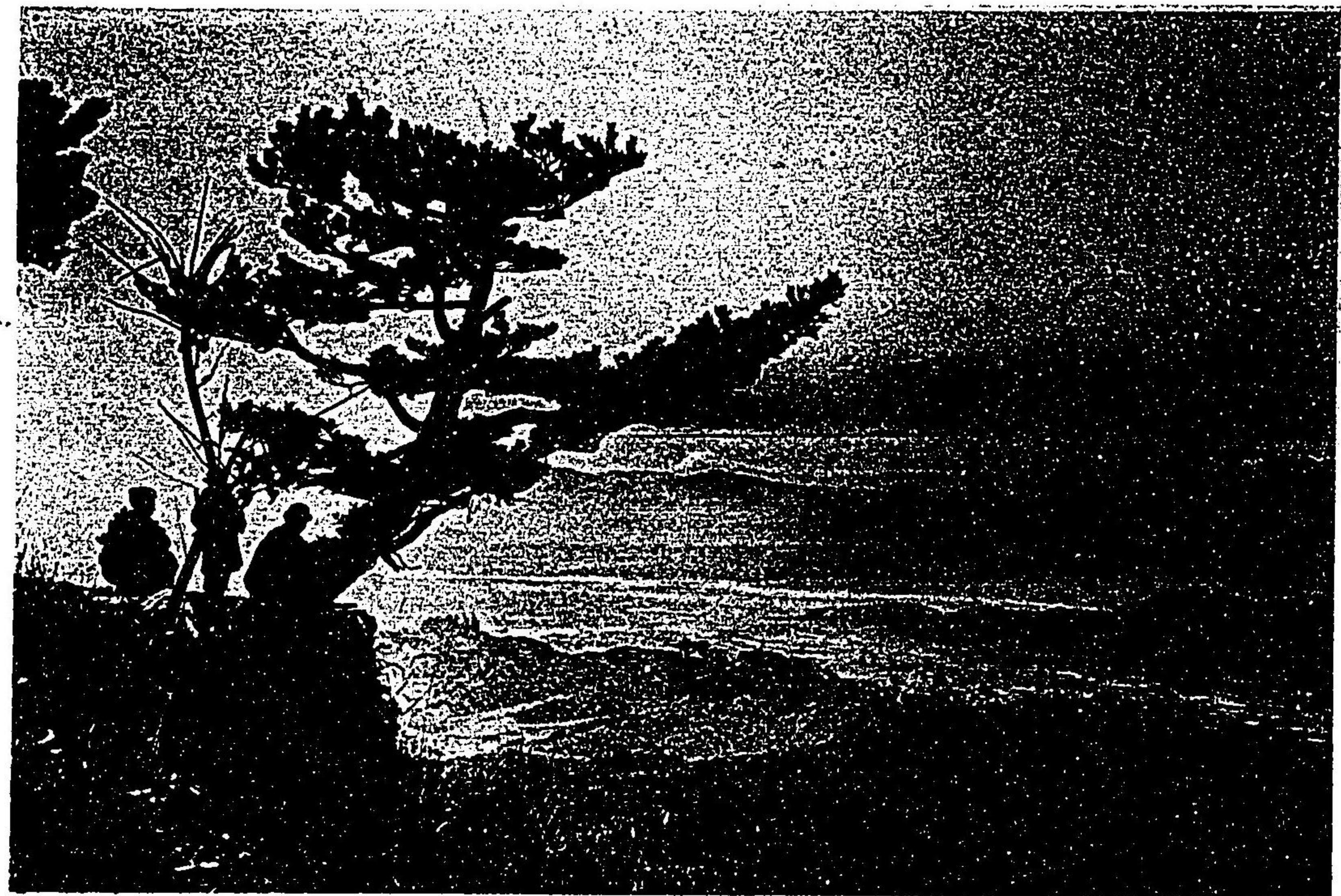


Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns. The text is contained within a rectangular frame with a decorative border. The characters are dark and fluid, typical of traditional Japanese ink writing.

(三廿共)

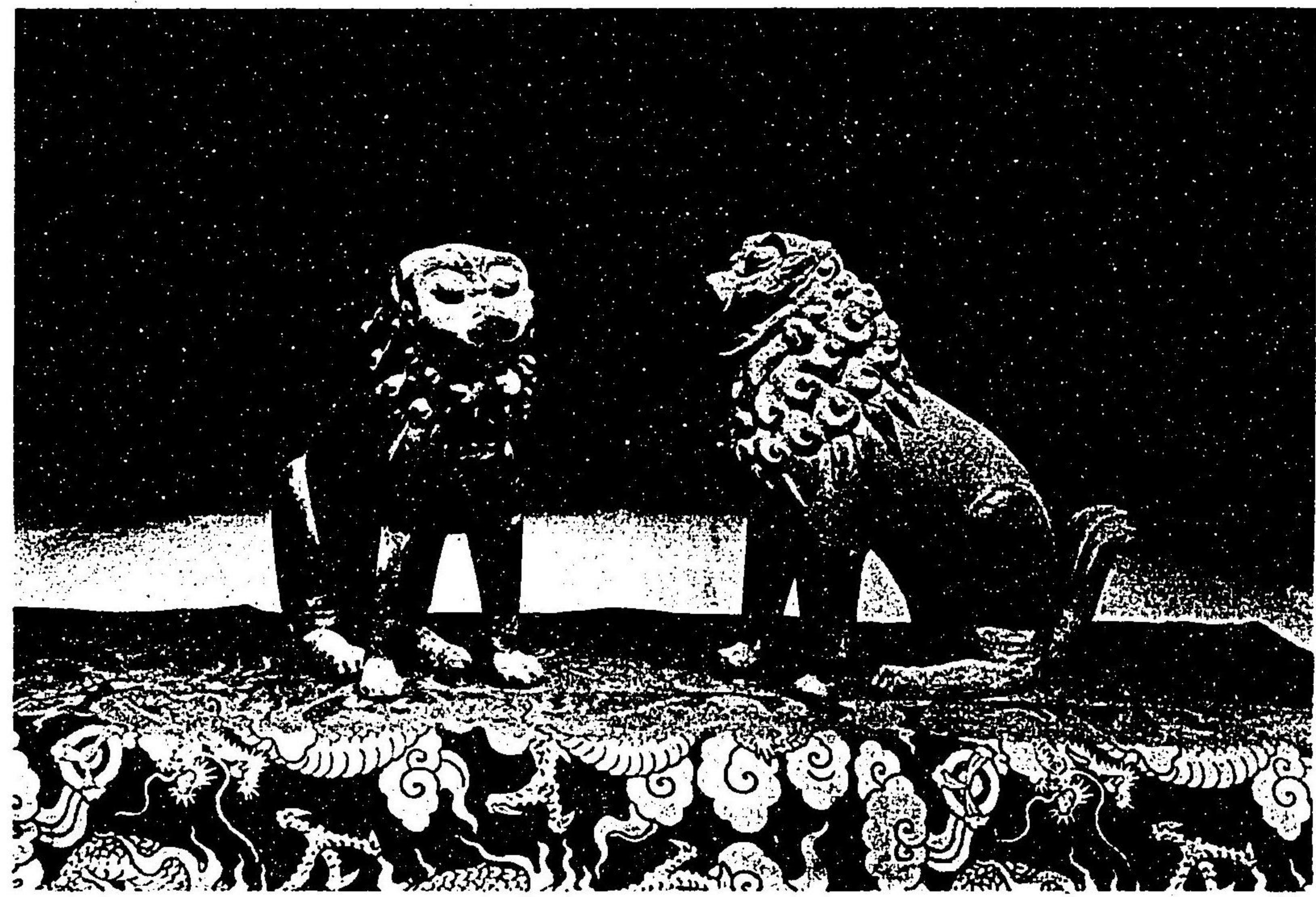
出羽守義光眞筆





(四廿其) 若松寺権松公絶頂ヨリ島海ヲ望ム

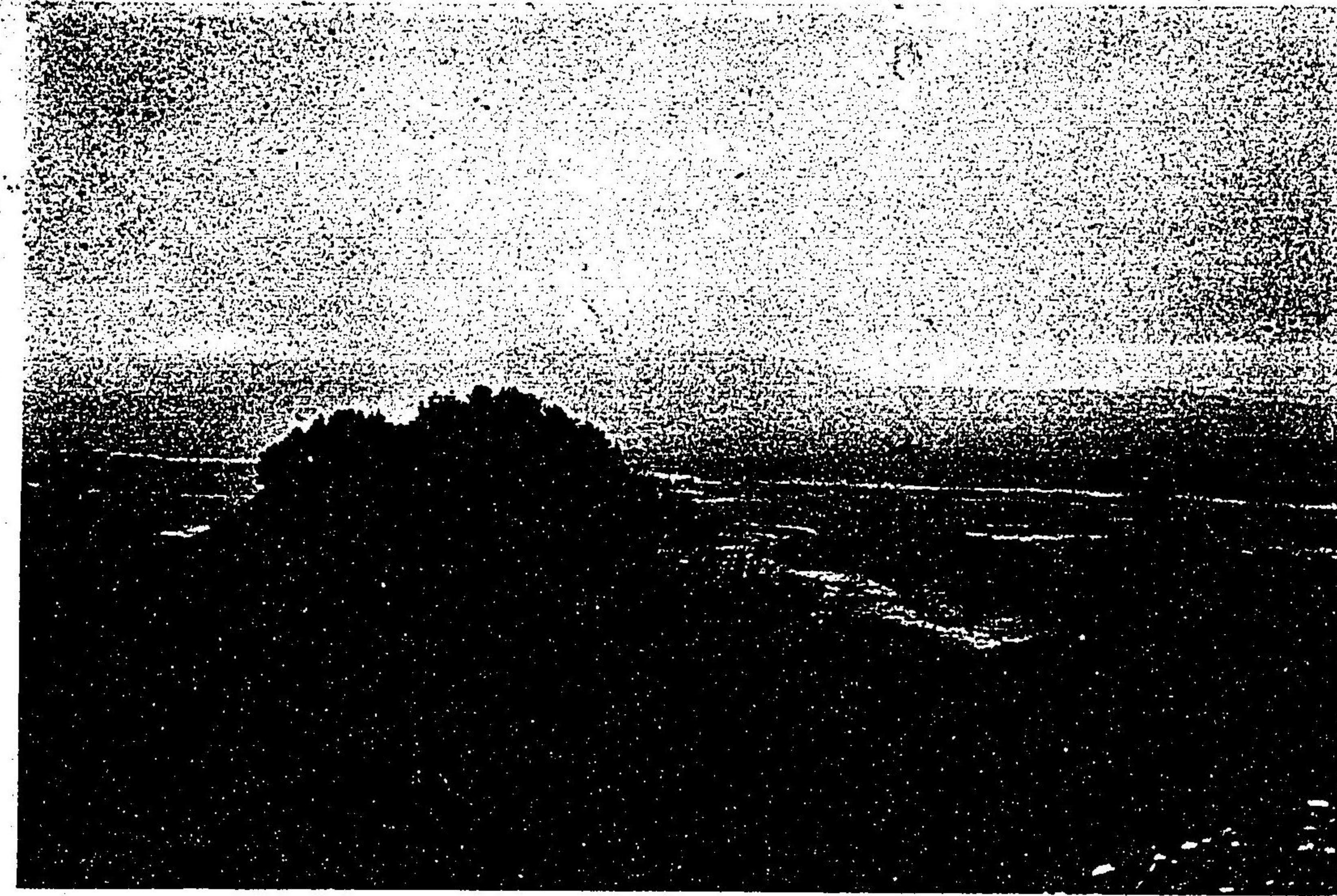




(五廿其)

狗麗高





(六廿其)

松公園 鳥海山及月山



## 鈴立山名勝寫眞帖説明

### 其一 鈴立山若松寺本堂

當山は 元明天皇の和銅元年行基菩薩の草創にして最上三十三所觀世音第一番の靈場なり

### 其二 鈴立山若松寺本堂内陣

本尊は開山行基菩薩一刀三禮の作なる聖觀世音菩薩なるも自ら封じて祕佛となす宮殿は七尺四面にて榿木は最上四十八箇主の寄進せるものなり

### 其三 開山行基菩薩

和銅年中行基菩薩の御自作にて木像御丈一尺四寸五分あり

### 其四 俱利伽羅不動明王

往古雨乞澤より出現せる靈尊にて旱魃の際雨を祈る靈驗顯著なり

### 其五 若松寺寶印及牛王加持印

和銅年中開山行基菩薩の御自作にて當山唯一の寶物たり

### 其六 境塚より鈴立山を望む

若松寺稚松公園より鳥海山を望む

四望豁然眺望甚だ佳にして遠く出羽富士の稱ある鳥海は雲間に映出し眞に畫中の觀あり

### 其八 開山行基菩薩眞跡

### 其九 毘沙門天

昔弘法大師湯殿山梵字川御開基の砌御自作遊ばされたるものにて兩所村某富豪の尊崇淺からざりしが御夢想により當山に奉納したるものなり

### 其十 七曜星及毘沙門天の五童子

何れも世に稀なる古佛にて兩扉は二十八使者并に王子の眷屬なり

### 其十一 鈴立山登山口

若松の群生せる山道を進み行けば一の鳥井に達す之れ當山の登り口にて之より奥院迄八町あり

### 其十二 鈴立山御坂

屈曲せる御坂の左右には雲樹の參差として苔滑なる眞に淨域たるを想はしむ



其十三 鈴立山夫婦杉  
天を摩する老杉にして世俗たけくらべの杉ともいふ

其十四 若松寺奥院辨財天  
昔弘法大師が常山にて一千座の護摩を奉修し其灰を以て腹籠の財辨天を自作せらる奥院即ち之なり

其十五 文珠菩薩  
若松寺食堂の本尊にして文明十一年六月十七日當座主賢海願主貞慶とあり銅像にて御丈八寸二分天文二十三年下野天明大藏とあり

其十六 兒育地藏菩薩、大日如來、不動明王  
菩薩は木像にて御丈一尺一寸五分大日如來は銅像にて御丈八寸二分天文二十三年下野天明大藏とあり後者は木像にて御丈八寸三分

其十七 若松寺華表より本堂を望む  
其十八 福性院より如法堂を望む

其十九 若松寺鐘樓より月山を望む  
其二十 辨財天、虚空藏菩薩、不動明王  
辨財天は木像にて御丈四寸五分虚空藏菩薩は木像にて御丈二寸六分不動明王は輪王寺宮殿下御下賜にて御丈一寸三分

其廿一 若松寺稚松公園絶頂より村山平野を望む  
眺望開豁脚下に村山平野を控へ藻江の大流帯の如くなるに亂川寒河江川の二水を注ぐ邊眞に活畫圖なり

其二十二 奉納札  
文龜永正年間等の觀世音菩薩參拜の紀念として納めたるものを保存せるものなり

其二十三 出羽守義光眞筆  
山形城主最上出羽守義光常山別當茶呼院に送られたるものなり

其二十四 若松寺稚松公園絶頂より鳥海山を望む  
其二十五 高麗狗  
内陣の左右にありて頗る逸品なり高さ一尺五寸

其二十六 稚松公園より鳥海山及月山を望む

明治四十三年十二月二十八日 印刷  
明治四十三年十二月三十一日 發行

山形縣東村山郡津山村字若松  
若松寺保存會長

本壽院住職

氏 家 榮 田

東京市神田區通新石町三番地

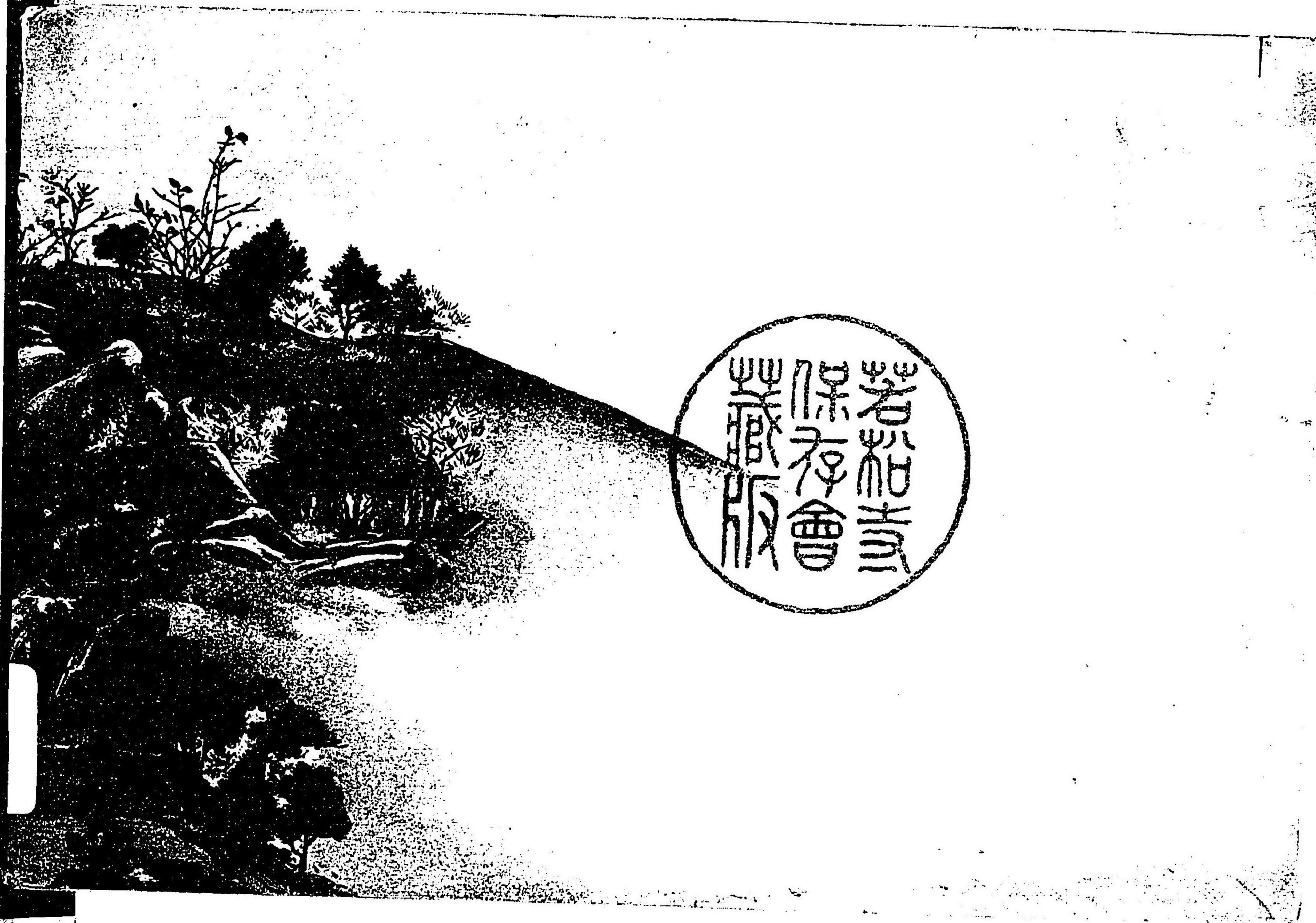
印刷者 田中市之助

山形縣東村山郡津山村字若松

發行所 若松寺保存會

著作權 所有





若松會  
保藏版